

第2回北九州市食育推進懇話会 議事録

1. 開催日時

令和5年7月20日(木) 18:30～20:00

2. 会場

北九州市役所 3階 大集会室

3. 出席者

(1) 構成員

◎天本構成員、木下構成員、木村構成員、黒田構成員、田中構成員、○長尾構成員、永津構成員、西村構成員、馬場構成員、原田構成員、藤崎構成員、安木構成員、山下構成員

(50音順・敬称略、◎:座長、○:副座長)

(2) 行政

(事務局)保健福祉局、子ども家庭局、産業経済局、教育委員会

4. 次第

(1) 開会

(2) 議題

① 確認事項

ア) 第1回北九州市食育推進懇話会議事要旨

イ) 本市の食を取り巻く背景について

② 次期北九州市食育推進計画体系(案)について

③ 次期北九州市食育推進計画指標(案)について

④ 意見交換

(3) 閉会

5. 議事

議題① 確認事項 ア) 第1回北九州市食育推進懇話会議事要旨

イ) 本市の食を取り巻く背景について

事務局 (資料を用いて説明)

座長

ただいま、議題の確認事項としまして、第1回北九州市食育推進懇話会の議事録、それから、本市の食を取り巻く背景に関しまして【資料3】、事務局より説明がございましたが、ご意見等ありましたらお願いいたします。

田中構成員

ポイント2のところですか。

ここに書いてある「食に感謝する。」というところがあるのですが、とても大切だと思うのです。私は、関わっている中で、感謝することが大事だということはわかるのですが、どのように具体的にこれを伝えていくかということは、大事な事だろうと思うのです。私たちは子どもとかかわっている中で「いただきます」という言葉を理解させながら伝えているのですが、一般に、日常生活の中でそれが理解されていないと、なかなか伝わるのが難しいだろうという感じがします。

それから、資料2のところ、高齢者では、「ふれあい昼食交流会」を市民センターで行っていると記載があるのですが、私の住んでいる団地はもう築50年になるので、高齢者が多く、市民センターに行ける方が少ない。

おそらく、そのうちの行かれています方って非常に限られた方になります。だからできるのであれば、地域の集会所だとかでこまめな活動ができないかと。

我々のところだったら、結構歩いて市民センターに行くと距離があるのですよ。それと、丘ですから、坂を上っていかないといけない。

今、知り合いに食生活のことを聞くと、「家にあるものを食べる」ということをよく聞きます。買い物行くのが大変だということを知ると、やっぱりこの食育に非常に、関係あるなという感じがします。だから、「食材をどのようにして年配者が手に入れるか」ということを考慮する、ということですね。食材を購入すること自体が大変だという話を、私の周りでは聞きました。それが気になりましたので、話をさせていただきました。

座長

ご意見有難うございました。1点目におっしゃった食に感謝するということに関しまして、後に入りまして本市での食育の重点項目として、食への感謝を入れていきたいと思っております。きちんとまとめていくつもりでおります。

もう一つの、第1回の議事録にございました、ふれあい昼食交流会に関しましては、後で説明させていただきます。

先ほど、多いと報告のありました食へのアクセスについて。【資料3】の7番にありますように、食へのアクセスが食品を入手しやすいような環境であっても、心配していますのは、地域によっては、坂が多いとか、高齢者ばかりおられて、なかなかインターネットとかも使えないし、バスで行くにしても、出て行くことが面倒ということもあるかもしれないので、その辺の実態調査も含めて、高齢者の方々の入手状況を調査していきます。やはり食材が手に入らないことには食育は始まらないと思います。

長尾構成員

今の高齢者に関するお話は、今の現実ですね。

今年、実はふれあい昼食交流会が30周年を迎えたのですが、すべての市民センターが一斉に始めているわけではないので、順に開始しているわけですが、市内全体で開催しております。当初から比べると、高齢者がとても多くなっていて、今言われたように、参加したいという希望が

あっても、受け入れる人数の許容範囲があつて、できないということがあるかと思ひます。それと地域的に広い校区だと、市民センターに行くのもなかなかアクセスが大変というような声もあります。地域地域でいろいろ工夫しながら、例えば、民生委員さんとか自治会とか、まちづくり協議会の皆様と団体と協力しながら。一緒に声をかけて連れてきていただくとかそういった行動を一緒にしていただくようなところも増えてきております。

それともう一つは食事を作るということで、食中毒のことが背景の9番に出ておりましたけれども、やはり大量調理をするにあたっては、すごく私たちが気を使っているところであります。

市民センターでも、主食・主菜・副菜とデザートと、大抵4種類の料理を作って、バランスの良いものを出すわけですが、それを作るのに、50人分ぐらいを作るのが、設備的にぎりぎりというふうに保健所の方からも、当初から指導があつております。

たくさん作ることが、市民センターではどうしても無理というふうになると、その人数が動かないように、例えば高齢者の方を、あるところでは地域を区切って、今月はこの地域、来月はこの地域というふうに分けて、参加する対象の方にするとう2ヶ月に1回になったりとか、3ヶ月に1回になったりというような地域もあるというふうに、聞いております。

本当に、参加希望される方みんなが食について、身近に感じていただけると一番いいと思つているのですが、そういった点ですごく難しいところがあるなというふうに感じております。

座長

他にございませんでしょうか。

【資料3】に関しましては、健康づくりおよび食育に関する実態調査結果だけでなく色々な調査結果から、9項目の北九州の実情をまとめて下さつております。

これから食育を中心に話をして参りますけれども、この【資料3】に背景が9項目ございまして、4番のポイントの健康寿命の延伸に関する事項は、食育と健康づくりを絡めて、食育推進計画と健康づくり推進プランの中で、細かくまとめているところです。それ以外のところもやはり食育に関して細かくまとめていきたいなと思つておまして、例えば、2番のデジタル化のことだとか、あと5番から9番までの食の安全や、農業商業、食の消費に関して、構成員の皆様からご意見をいただきたいと思つております。意見でなくても、今取り組まれていることなどがありましたら、ぜひ教えてください。

まずは、9番の食の安全安心、7番の食へのアクセスに関わることで、山下構成員、何か取り組まれていることや課題など、ありましたら教えてください。

山下構成員

私たち消費者団体で、今回4年ぶりにコロナがちょっと落ち着いている(今また落ち着いてはないのですが)ということで、親子料理教室を再開するよういたしました。学校給食の調理員さんとかのご協力を得て、子供たち人気の学校給食レシピを、人数は少ないのですが、8組ぐらいの親子で、みんなで作ることによって、調理員さんのご苦勞であったり、作る方のご苦勞であったり、そしてもっと先の生産者のご苦勞というのも含めて、命をいただくということも含めて、子どもたちと一緒に学習しながら食べるという活動をしております。

今年もそういったところで親子料理教室をいたしますし、一つ案として出ているのが、色々な病気をお持ちの方が、塩分もそうなのですが、ミネラル(カリウム等)を摂りすぎるから、野菜をゆでて煮こぼしてとか、そういった食材の工夫であったり、食品ロスに関わることですが、大根1本を使い切ったり、お魚も今もうほとんど切り身で売っておりますので、そのまま買って全部を使い切るというような、そういった料理教室もやりたいね、という案はたくさん出ております。

どこまで出来るかわかりませんが、消費者団体としてはそういう取り組み案が出ています。

私自身は生協とかを利用していますが、高齢になっていくと、なかなか作るのは大変そしてバランスよく食べたいって言った時に、奥様にご病気で入院された時など、買い物ができないこともあるかもしれません。配食サービスであったり、お弁当もあったり、そういったものをご利用したらどうですかとか、ドラえもんのポケットみたいに、色々な「こんな方法がありますよ」ということをお話するようにしております。

あと自分の地域でいうと、先ほど食進さんが言われていたふれあい昼食交流会が市民センターで行われているのですが、私がボランティアで行っている市民センターは、食進さんが高齢になって、今年から昼食会をやらないということになったのです。そうなる来たいとおっしゃる方もそういう場がなくなる。

もう一つの地域では、サロン活動といって、民生委員さんなどが月に1回、「みんなで食事を作りながら食べませんか」というような元気の出る活動をされていたり等、いろんな地域で特色を出しているのかなというふうに思っています。

ただ、今気になるのがテレビを見ていて、サプリメントというのがすごく横行していて、若い世代は特に食事を、錠剤を食べることによって「これでカルシウムがとれる、これで栄養がとれる」というふうに、勘違いされているのかなというのもあります。

やはり、私たちは食べるのが一番いいよっていうふうに言っていますので、忙しい主婦の方には難しいかなというふうには思いますが、家族と一緒に食べて健康でいようね、というのは常に言っております。以上です。

座長

有難うございました。消費者団体でも、食育をいろいろ取り組んでくださって有難うございます。色々な地域の特性を持って実施していただいています。今後もよろしく願いいたします。

最後におっしゃっていたサプリメント、私も同じように思います。サプリメントに関して、ご意見を頂戴したいと思います。食育に関してという部分も含めて、安木構成員お願いします。

安木構成員

サプリメントは、ものによって医薬品との組み合わせもあるので、特に高齢者は注意が必要になってくる方もいると思います。

薬の飲み合わせが悪いものなどがいっぱいあるので、そういうところは薬剤師としては注意しながら患者さんには説明させていただいています。

サプリメントを、先ほど若い方がよくとられると言われていたのですが、どうしても「食べる」と太る」という部分から、サプリメントで栄養補給しようっていう方が多いのかなと個人的には思い

ます。ですが、食事から極力とれる方がベストなのは間違いがないと思っています。

若い世代の方、特に独身の人は、「自分で、家でご飯を作るという習慣がない」とか、「仕事が忙しく、時間に余裕がなくて作れない」とかがあるので、その見直しができれば。「サプリメントに頼らず、ご飯をちゃんと作って食べよう」という、時間のゆとりが必要なのかなと思います。

座長

有難うございました。今回の食育推進計画の強化ターゲットは、すべての世代を評価するのですが、一番評価したいと思っておりますのは、若い世代、働き盛りの世代です。

食事をとらずにサプリメントで大丈夫ということは間違いですし、家で作ることなしにサプリメントさえとっていればよい、というところは、やはり食育を実施して、正しい知識を身に付けて頂くといいかないと考えております。

あと少し時間がございますので、食の安全・安心ですけれども、【資料3】の5番と6番。関係の深い、生産と消費、それから、本市の生産者の担い手が低下しているということも問題になってきています。

市民がよく購入しているものやあまり購入していないものとして、5番の下に、野菜類が37位とか23位と載っています。野菜に関しては、購入の割合は少ないのですが、小倉南区だとか若松区だとか、地域によっては自家農園で作られたり(販売されている分もあるが、ご自身や家族分もそこで補う)とか、自家菜園で栽培をされていたりして、わざわざ野菜を買わなくてもいいということも多いのだと思います。農業に関して、永津構成員がみえていますので、本市の現状と、取り組まれている課題等ございましたら教えてください。

永津構成員

JAの中の、女性部での話ですが、後継者不足っていうのはものすごく問題になっています。なぜ後継者が繋がらないかという、やはり農家だけで生活していくのは大変なのですよね、収入自体が。今は、近くに行けばスーパーがあって、安い野菜が手に入るという状況なので、農家が一生懸命作って良いものを出しても、安い方が売れる状況では生活ができないということで、若い人は外に出て仕事をしたほうがいいかな、と離れる。農業をしなくなるというのが、今の現状だと思います。それを打開していくには、やはり農業をもう少し生活ができるようにしていってもらわないといけないのではないかなと思います。

今、女性部で活動をしている中で、今年度からなのですけれど、高齢者施設(ホーム)に入所の高齢者が多くて、ホームの経営者の方と一緒に、入所者さんへ減塩、適塩と言ってくださいって言われるのですが、適塩料理というのを、先月から毎月1回講習会を、皆さんと一緒に調理して食べる、今そういうことをやっています。

農家の方は、動くから塩分が少ないと難しいですよ。やはり「漬け物がない」と言われたりします。だけど、1週間頑張って減塩していたら、慣れるよ、と話していますが、なかなかみんなには周知できなくて。だから、女性部で減塩の教室をやろうということで始めました。続けてできるといいのですが。皆さんお忙しい方が多いのですが、頑張ってくださいと思っています。

それと、親子料理教室っていうのも、小学生対象にやっています。コロナがあって、3年間中止

しましたが今年からまた始めようと思って検討しています。地元の野菜を使ってもらって、していくようにしています。

一番簡単なものからでしょうかという形で、今回は(地元の野菜等の食材を使った)カレーなどからしようと思っています。でも、募集してもなかなか集まらないので、声かけをして、10組ぐらいでやっています。

地域としては北九大の学生さんと一緒に勉強会とかしています。今回も、「ギョーザ作りをしたいので、地元の野菜で作りたいので教えてください。」と言われて、今から動くようになっていきます。後継者不足で野菜を作るのも大変なのですが、やはりやっていると楽しいのですが、それをわかってもらいたいのにも、なかなか子どもたちと一緒に農作業などをすることができない。だから、芋を植えて収穫したりとか、小学校とかでしていますけど、子どもたちと一緒に、というのができない状況にあります。

あと移動販売を、少しですけどJAでやっています。どういふのを持って行って、どこの地域で売っているというのは把握できていないのですが、購買難民の方、買い物難民の方がいるところに持って行って販売をするように継続しているようです。

これからも食育というのは大事だと思っていますので、私たちJAも、その辺を中心にやっていきたいなと思っています。

座長

ありがとうございます。地場の産物は野菜もお魚もお肉もすごくおいしいですし、しっかり作ってございます。この消費を上げるということも大事で、その中での活動など、食育を含めて、実施してくださっているということです。

先ほど北九大の学生さんたちと一緒に、料理教室をしたりとか、いろいろ作ったりっていうことをされているということですので、そのように北九州市内の学生さんにどんどん動いてもらって、そして若い世代にデジタルを利用して発信してもらおうということも大事だと思いますので、そこは市と一緒に、若い世代に活躍してもらい、広く広げるっていうことをぜひしたいなと思います。

では他にございますか。

原田構成員

すでにお話を聞いているのですが、「ふれあい昼食交流会」とかはあるのですが、昔、子ども食堂というのがあちこちにあったのですが、最近その話を聞かないです。

今、子供食堂は北九州の中でどれぐらいあるのですか。コロナの時期に一気に全然を話聞かなくなっています。

実は私も、子ども食堂をしようとしたことがあって、その時に、食材はボランティアの方たちから皆いただいて作るようになって、場所もうちが提供するというところまでしたのですが、その時に「何かあった時に誰が責任取るのか」と、食中毒とかいろんなものの責任問題があって、一生懸命子どもたちのためにして、それでそういうふうな問題が起こるのだったら、支援しない方がいいのではないかということで、躊躇してしまったことがあるのですよね。

子ども食堂って、今の親御さんは、共働きで朝食できない。でき合いのものばかりを食べさ

せるというのが多くなっている。朝食べないという子も多いし。子どもに朝ご飯食べさせるのはすごく大切なことだと思っているので、そういう部分が今お話の中で出てこなかったのが、現在どんなふうになっているのかなと聞いてみたい。

それと前回は話したのですが、子どもたちを連れて行って地引き網をして料理するっていうのを来週水曜日、子どもさん20名と大人が15人で、それに調理師の方が25人で、それぞれマンツーマンの状態でやろう、ということを計画しています。

やっぱり食育っていうのは、子どもだけでなく大人も必要だ。ということで。

僕もいろいろ読ませていただいて考えたのですが、僕の思っている食育はよく噛んで食べているかっていうことを子どもたちに伝えるっていうことを一生懸命やっていたので、やはり子ども食堂のことがちょっと気になったので、ちょっとお聞きしたいなと思ったのです。何かありましたらお願いします。

事務局

子ども家庭局総務企画課長 川口と申します。よろしくお願ひいたします。

子ども食堂は、やはり子どもさんが自分で歩いて行ける距離、本当は小学校区に一つぐらいが一番理想的なのですが、年々数は増えておりますが、今正確な数字は申し上げられないのですが、まだ50数ヶ所ぐらいしかない。

子ども食堂の目的は、食育だけではなくて、多世代の交流、小学校のお子さん、小さなお子さんから高齢者まで様々な年代との交流を深めること。もちろん子ども食堂には何らかの形で、十分に家庭で夕食をとれていなかったりとか、そういった子どもたちへサポートする場でもあると思っております。

北九州市といたしましては共働き家庭といった問題だけではなくて、今現在の子ども食堂の目的は、世代間の交流を深めて、子どもの一つの居場所になるような形を目指して作っております。

座長

ありがとうございました。今おっしゃった子ども食堂ですけれども、そこで朝食摂取の重要性を伝えることだとか、子ども食堂で、子どもと大人とが一緒に活動し、食事をする中で共食の重要性を知るとか、一緒に食べる楽しさをここで自然と学べることになると思います。

食育としては全ライフステージで、今もこれからも、継続してやっていきますので、よろしくお願ひいたします。朝食摂取に関しては重点項目にも入っていますので、後ほどお話をさせていただきます。他にございますでしょうか。

それでは、特に質問がございませんでしたら、次の議題に進ませていただきたいと思います。議題2、北九州市食育推進計画の体系について、事務局から説明をお願いします。

議題② 次期北九州市食育推進計画体系(案)について

事務局 (資料を用いて説明)

座長

有難うございました。ただいま、次期北九州市食育推進計画の体系案について事務局から説

明がございましたが、ご意見ございませんでしょうか。

まず資料4の1番の計画の理念について。第二次、第三次の食育推進計画を踏襲する形で、そのままといいますか、現計画は市民一人一人の前に、「家庭や地域関係団体が連携して食育を推進し」という言葉が入ってありました。でも当然連携は必要なことですので、そこを外しまして、「市民一人一人が」を書出しとしております。でも、内容は現計画と同様でございます。これに関しまして、構成員の方々からご意見ございますでしょうか。

下の2番の「計画の位置付け」につきまして、北九州市の食育推進計画を考えて参りますが、この位置付けで、右側の表の主な関連計画としまして一番上の、同じく保健福祉局の方で進めております「北九州市健康づくり推進プラン」。ここに食育もかなり関わって参りますので、健康づくりプランの方の食育に関しましても整合性がとれるような計画をしていきます。

健康づくりプランの方の方向づけに関する項目として述べられているということもありますので、後ほど資料を一緒に確認いたしまして、お話させていただきます。

それ以外の子どもプランだとか教育委員会のプランだとか、6つの関連計画に関しまして、ご意見ございますでしょうか。ここに挙げていない計画も食育には必要じゃないかとおっしゃる計画がございましたら、教えていただきたい。大丈夫でしょうか。

懇話会が終わりまして、そのあとに、北九州市のホームページをご覧になって、「この計画って食育と関係あるのでは？」っていう項目が出て参りましたら、事務局の方までお知らせください。よろしくお願いいたします。

それでは次の議題ですけれども、【資料5と6】。

本市の健康課題でございます、「オーラルヘルス」「高血圧」「肥満」です。ここに関しましても先ほどの健康づくりプランの方でも重点項目として進めていく予定と聞いております。

食育についての計画でございますので、本市の食の重点課題としまして、左側から2番目に食育の課題を5つ挙げてございます。この5つの課題ですが、『1朝食の欠食』、『2野菜摂取不足』、『3食塩の過剰摂取』、『4エネルギーの過不足』、『5食への理解と感謝の意識の醸成』としております。この5項目を食育の課題とさせていただきますとよろしいでしょうか。

西村構成員

管理栄養士をしております、西村です。この食育の課題について、十分ですが、1点気になったことがあります。

本市の健康課題のオーラルヘルス部分で、口腔機能の低下と野菜摂取不足の関係については、野菜摂取の減少が口腔機能の低下につながることを盛り込んだ方がわかりやすいかなと思っております。

座長

ご提案ありがとうございます。

私も座長として、事前に事務局の方に確認をしないといけなかったのだと思うのですが、オーラルヘルスと口腔機能の低下のところは、健康づくりプランとともに進めていくということで、健康

づくりの計画の方での重点項目で挙げてらっしゃるのかもしれないのですが、どうでしょう？

事務局

そうですね

座長

歯科医師会の藤崎構成員にもご意見をいただきたいと思います。

藤崎構成員

北九州歯科医師会の藤崎です。

オーラルヘルスと口腔機能の低下というのをここに書いておりましたが、まず機能の低下が一番よく見られるのはやはり高齢者だと思います。

北九州市では、口腔の課題は子どもさんからのところがあります。子どもさんのところでは、前回もお話したように、虫歯率が政令都市では一番多いところなのです。だけどこれは、根拠を明かしますと、学校検診に行くと10人中9人は、皆さん綺麗です。その中で1人ぐらいたくさん虫歯があります。そういう方が何人かいらっしゃるので、率が高いという表現をされます。それで、北九州市が政令都市では、高い有症率とっておりますが、今後フッ素洗口を徹底してきますので今年から虫歯の多い方も減ってくるのではないかと思います。

そこに書いてあります口腔機能の低下というのはおそらく、高齢者のことを指しているのではないかなと思います。歯科的にはですね、口腔機能の低下っていうのは言葉的には「オーラルフレイル」といっています。我々歯科的にはこう使うのですが、医学的にはすべて機能が低下をすることがフレイルということですね。

4番のエネルギー、栄養素の過不足のところ、低栄養予防には高齢期のフレイル対策に重要というところでは、口の事も同じで。機能が低下したりしますと五感の低下もありますし、そういうのを回復させるために、口の中のリハビリみたいなものを、少し大きめに、大きく口開けてみたりとか、ベーと舌を出したりとかしていこう、ということをお啓発しています。口の中をまずは清潔にするということがすべてに関わることなのですから。

オーラルヘルスという「口の健康度」を上げることが、お食事を美味しく食べれるし、いろんなものを噛んで食べる。丸のみせずに噛んで食べるというところは、一番の入口かなと思いますので、この辺は歯科医師としては、十二分に対策を取り組んでおりますので、この辺は、もう少し私の方で次回、口腔機能の低下についての資料を提供していきたいと思っております。以上です。

座長

ありがとうございました。口腔機能とフレイルの問題というの、本市の重要課題になっていきますので、健康づくりプランの方で詳しく計画されていくと思います。

西村構成員がおっしゃっていたのは、私たち管理栄養士から申し上げますと、ここ(資料)に点線で口腔機能の低下として、オーラルヘルスと野菜摂取と結びつけておりましたが、おそらく咀嚼嚥下機能が弱まって参りましたら、食物繊維の豊富な野菜の摂取量が落ちるといわれる

いますし、その食物繊維が野菜類から摂取できると伝えたいという思いが含まれていると考えます。また、高齢者の便秘をしやすい等の加齢に伴う生理機能の低下も問題になります。しっかりと噛んで食べるということは今回の指標にもあります。噛むことの重要性というの、継続して伝えていきたいと思っております。ありがとうございました。

食育の課題に関しまして、ほかにご意見はありませんか。

北九州市の現状や背景がありまして、野菜の摂取不足、それから、今回強化ターゲットしております若い世代での朝食の欠食、そして働き世代と言われている40代の男性の肥満者の増加、さらに、肥満者といわれるBMI25以上の方々は、食に関わる項目として早食いだったり、欠食が多かったり、睡眠が十分取れてなかったり、就寝前に食事をしたりといった割合が高くなっております【資料5】。

そういった、背景を受けて、【資料5】右側の対策として、三つの方向性、方針を、『Ⅰ個人の健康の視点』と、『Ⅱ社会・環境・文化の視点』、『Ⅲ横断的視点』としました。これは参考資料の最後にありますけども【参考2】、国の第4次食育推進基本計画での基本的方針の三つの柱を基に、本市としましても、【資料6】の真ん中の対策を組み立てています。柱のⅠ・Ⅱと、それからこれを囲んだ形Ⅲという部分です。

まず、『Ⅰの学びと実践による健康に繋がる生活習慣の確立』に関しましては、『個人の健康の視点』としておりますけど、国は『国民の視点』と書いてございます。市としましては『個人の健康の視点』として設定します。

『Ⅱの次世代へつなぐ社会環境の整備』、これは国の計画と一緒に、本市においても『社会・環境・文化の視点』として項目立てております。

『Ⅲの様々な機会を活用しての食育情報の発信：横断的視点』では、本市としても次期食育推進計画において積極的に進めていきたいと考えておりますデジタル化に対応した食育の推進を含みます。

この対策に関しまして、方向性や指標を、後程設定していくのですが、やはり取り組みが決定しないことには、本市の食育の計画が進められませんので、この【資料6】の対策のところ、柱と細かい取り組みの内容に関しまして、構成員の方々からご意見ございましたらいただきたいのですが、この柱、対策、取り組みに関しましては、またご意見を頂戴したいと思うのですが、さらに、この取り組みの内容、対策を受けまして【資料6】の右側にあります、スローガンに関しましては、構成員の方々から色々な案を挙げていただきたいと思っています。

そして、今回新しく【資料6】右から2番目に、『目指す市民の姿』ということで、8つの目指したい市民一人一人の食育に関する行動を挙げております。

今までは行政(市)で食育の計画について決めて、食育推進計画を『文書』で策定し、『市』で取り組んでいくというような形だったのですが、やはりより『市民』に近い形で、市民に目指して欲しい『姿』を挙げていくということを、今回食育推進計画の中で進めて参りたいと思っています。

この目指す姿、これが【資料7】にもございますが、そこに関しまして、ご意見いただけますでしょうか。

田中構成員

先ほども言ったのですが、「食に感謝する」ことについて。

これは具体的に、どのように、正確に伝わっていくのかなってという考えで、例えば、ステーキはおいしいが、牛肉が牛からとれている肉だということ自体があんまりわかってないのですよ。スーパーに行って、これがステーキだっていうこの形が肉だっていう考えなのです。

私は、大事なことは「命をいただいている」というところの感謝。ところが、意外と命をいただいている場面ってというのはブラックボックスになっている気がするのです。

高校生を対象に鶏を捌いて見せることをやろう、ということをやったのですが、まず本社から、それやったら絶対に子どもたちが食べなくなるから、これじゃない。という話なのです。

命をいただいているという、健康な鶏だとか豚とか牛の命を私たちはいただいて、健康を保っているという、その感謝というのに繋がっていくのだと思うのですが、大事な「命をいただいている」ところはブラックボックスになっている。そこにつなげていかないと実際の感謝ってということには繋がらないのではないかなという感じがしております。

それと、ちょっと突っ込んだ話なのですが、これは非常に平穏な時代、食材が全部揃っているという前提で進んでいるような気がするのですが、去年のような、豪雨災害があった時に食材が手に入らないということもあり得るだろうなという気がするのです。周りの山菜とか野草とか、そういうものが食べられるということを知れば、それもやっぱり感謝に繋がるっていうかね。突っ込み過ぎですが、そんな感じもしました。

座長

ご提案ありがとうございます。『食への感謝』ということでは、【資料7】の、「目指す市民の姿」の4から8まですべてに関係していて、「食育の重点課題」の5番にも『食への理解と感謝の意識の醸成』という項目が入っております。

田中構成員もおっしゃるように、小さいうちから食へ感謝をするには、命をいただくということをおぼろげにわかっていないといけないということで、市としましては小中学校の学校給食でしっかりと命に感謝する、食への感謝というの、低学年から教えてきております。あと保育園、幼稚園でも、食に感謝することの食育、これは小さい頃からずっと教えています。

ですが、子供たちの中には、お肉がまさか牛などから取れるとか、お魚を切り身しか見たことないし、お寿司屋さんでしか見たことない子供たちが、魚ってこんな形してるのだと知らなかったりというの聞いております。そういったことを知らない子も、中にはいるのだということで、すべての成長期の子どもたちに、食に感謝していってもらうためにも、いろいろ策について考えて、楽しんでいただくことから始めたいなどは思います。

食に関する感謝に関して、事務局はどうですか。お願いいたします。

事務局

産業経済局農林課長の下元でございます。

食に感謝するということでございますが、農林課では、小さい子どもたちに農業体験をする事業を行っております。

例えば小学校で、バケツで米を育てるとか、お米がどういうふうにできるかっていうのは多分小さい子どもさんはまだわからないと思いますので、実際学校で育ててもらって、苗を植えて、花

が咲いてそれがお米になるのだよっていうところを体験してもらっています。

それと、学校給食で提供させていただいておりますじゃがいもや大根の収穫体験とかを、実際に畑で収穫することによって、大根はこういうふうになるのだなっていうのは体験していただいているところがございます。

農業の分野ではそういう、小さい頃から畑に行って、農業体験をしていただくという事業を行っているところがございます。

田中構成員

それともう一つ、そこに携わっている方、やはり作られている方の苦労というか、そういうことも一緒に伝えていかないと。

黒田構成員

例えば、保育園の食育で魚を大きなままで持ってきて、目の前で触らせたり、さばくところを見せたりしています。それから、保育園でもバケツで稲を育てていて、収穫しようとしたらスズメさんが来て食べちゃって、僕たちのお米がなくなった、とか。

イモリを育てて、えさは、ハエとか蚊とかを子どもたちが捕まえてきて、食べて生きているわけだから、そういうところをやっばり職員と話しながら「生き物は皆こうやって別の生き物を食べて生きているのだよ」ということを教えたりしています。食育に直接繋がるかどうかわかりませんが、そういう体験を食への感謝にも関連させて、しっかり取り組もうと思います。

座長

時間が押しておりますので、今後にもまた、目指す姿についても議論いただきたいと思います。紙でご意見をいただけたらと思っております。

では、次の議題に移らせてください。3番目の議題、次期北九州市食育推進計画の指標案について、事務局の方から説明をお願いします。

議題③ 次期食育推進計画の指標(案)について

事務局 (資料を用いて説明)

座長

ありがとうございました。ただいま次期北九州市食育推進計画の指標案につきまして説明がございましたが、ご意見ありましたらお願いいたします。

山下構成員

質問なのですが二つあります。

4番目の1日当たり350グラム以上を食べている方の割合のところを言うと、さっきサプリメントって言いましたが、今結構テレビでは青汁等がよく言われていますし、野菜ジュース、といったものも、野菜を食べているというふうに含まれるのでしょうか。難しいところですね。

それと16番目の「健康づくり応援店」、私ちょっとこれはわからないのですが、健康づくり応援店登録店舗数っていうのがあって、これは何か認証マークみたいのがあるのかなのかを教えて欲しいなと思いました。

事務局

健康推進課長

まず、4番目、1日350グラム以上の野菜を食べているものの割合。こちらは、サプリメントはともかくといたしまして、野菜ジュースや青汁は含まれている形となっております。

健康づくり応援店につきましては、ヘルシーメニューであるとか、この中には受動喫煙防止の店等も項目としてありまして、それがどれに該当するものかにつきましては、登録していただいた応援店には、小さいのぼりを渡して、市のホームページや、「GoGo あるくっちゃ KitaQ」というスマホアプリなどに、応援店を掲載させていただいているところでございます。

座長

ありがとうございました。議題3の食育推進計画の指標案ですが、食育計画の取り組み内容が決定しないと、この指標も掲げられませんので、今後、検討して参ります。国と地方(本市)で違うところもありますけども、国の指標を踏襲しながら、市として目指す姿を組み込み、今ある16項目を指標として挙げております。

黄色い網掛け部が変更、ないしは新規の項目になります。

やはり朝食の欠食に関しては、特に今回D評価となりました20代30代の朝食欠食だとか、山下構成員がおっしゃってくださった、野菜に関しましても、「350グラム以上の野菜を食べていると思う者の割合」というふうに少し和らげていますが、「思う者の割合」をふやすというからには、市としては、野菜350グラムを具体的に視覚的にとらえてどのくらいだということや、生で食べることもありますけれどもすべてが生で食べるわけじゃありませんので、それを調理した時にどのくらい変わるのかとか、調理のことも含めながら、市民にいろいろと示していかないといけないかなと思っております。そこで「思う者の割合」を増やしていきたいという指標にしています。

それから5の塩分を控えている者の割合ですね、「控えているという意識」、具体的な絶対量で7.5グラムとか6.5グラム未満と設定するよりは、「控えているよ(減塩しているよ)」ということ意識する、その割合を増やしていきたいと思っております。

下段の「持続可能な食を支える食育の推進」に関して、食の環境等の指標を新規に入れていきます。国の指標にも、これがありますので、新規に組み込んでおります。

次に変更点、食育のボランティアについても、今までは参加者でしたけど、活動している者の数に、とか、食育を推進する店舗数を増やすことを目指すということで、今までは禁煙しているなど、そういったお店も入っていましたが、やはり食育ですので、ヘルシーメニューの登録店舗数を上げていきたいというふうに考えております。ただ、議題2の項目を掲げて、その指標をしっかりと3回目につなげていきたいと思っておりますので、これも含めてぜひ構成員の方々にご意見を頂戴したいと思います。

時間もありませんので、紙ベースで意見をメールかFAXで事務局へ送っていただけたら幸い

です。

長尾構成員

15番の食育の推進にかかわるボランティア団体での活動について、変更点として、指標及び目標値の考え方のところに、食生活改善推進員の名称が載っており、参加者数が指標になっていますが、次期計画はもうちょっと他の食育の推進のボランティア団体にも幅を広げて行くという指標になるということですか。

事務局

その通りでございます。食育に関する全体のボランティア数をふやしていきたいというふうに思っております。

座長

ありがとうございました。それでは終了時刻を過ぎておりますので、第2回の北九州市食育推進懇話会はこれで終了いたします。

構成員の方々にお願ひがあります。食育推進計画に「スローガン」がございまして、3回目以降に考えていかないとはいけません。第3次計画では「北九州の豊かな未来に向けて食べて健康、みんなで実践」というスローガンでした。第4次計画のスローガン案を検討させていただければと思っております。

本日構成員の方々からいただきましたご意見は、事務局で整理して検討させていただきたいと思ひます。

それでは事務局から連絡事項等ありましたらよろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございました。

本日伝えられなかったご意見等ございましたら、配布した資料の、「第2回北九州市食育推進懇話会内容に関するご意見」の用紙にご記入いただいた上、電子メールまたはFAXにて、健康推進課事務局の方にご提出をお願ひいたします。

なお、今後の予定ですが、すでに日程調整をさせていただいておりますとおり、第3回目の開催は8月18日(金曜日)を予定しております。1か月後というところになります。改めまして、開催に伴うご案内との出欠の確認のご連絡をさせていただきます。

第3回は、柱部分の取り組みについて、それからスローガン案についてのご検討をいただく予定としております。

スローガン案についての検討にあたりまして、ご提案されたい案がございましたら、「第2回懇話会ご意見」の用紙に記載の上、送付いただければと思っております。

最後になりますが、本日の会議の議事録につきましては、公開することとしております。

後日、議事録を作成いたしまして、皆様にお渡しをさせていただくとともに、市のホームページ

にも掲載をさせていただきますので、ご了承ください。

なお、議事録の確認につきましては、前回同様、座長様にお願いをさせていただきたいと思えます。

それでは他に連絡事項、ご意見がございませんでしょうか。なければこれもちまして、第2回北九州市食育推進懇話会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。